

## ★いつになれば日本で遺伝子組み換え作物の栽培は実現できるのか★

### ～開発途上国で GM 作物を栽培する女性たちのレポート～

遺伝子組み換え（GM）作物は1996年から世界で流通し、日本では輸入された GM 作物（主にダイズ、ナタネ、トウモロコシ、ワタ）が食用油の原料や家畜の飼料などに使われています。ただ、いまだに国内では商業目的の栽培は実現していません。

GM作物は一般に大規模農家にしかメリットがないかのようなイメージが流布していますが、実は、フィリピン、インドネシア、インドなど開発途上国で広く普及しています。しかも、小規模な農家にとっても「農薬の削減」「収量の増加」など大きなメリットがあります。今回のシンポジウムでは、フィリピンとインドネシアでGMコーンを栽培する女性農家2人を招き、小規模農家の多い途上国でGM作物がどのように役立っているかを報告していただきます。そして、日本でGM作物の栽培を実現させるとしたら、どのような条件が必要なのかについて徹底議論します。

・・・・・・・・・・開催概要・・・・・・・・・・

【テーマ】「いつになれば日本で遺伝子組み換え作物の栽培は実現できるのか」

【日時】2024年11月27日（水）13時半～16時15分（13時開場）

【場所】日比谷図書文化館地下ホール（東京都千代田区日比谷公園1-4、03・3502・

3340）▼アクセス（東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線霞ヶ関駅、都営三田線内幸町駅下車）

【主催】「遺伝子組み換え作物の映画実行委員会」

【プログラム】 司会進行 小島正美（元毎日新聞編集委員）

1 基調講演 ※逐次通訳（2人）が付きます。

演者 Ms.Rosalie Ellasus さん（フィリピン、GMコーン栽培）

Ms.Faucik Endang Lestari さん（インドネシア、GMコーン栽培）

2 パネルディスカッション（進行役：小島正美）

パネリスト：徳本修一氏（鳥取市の大規模農場生産者・GM作物の栽培に関心）

：田部井豊氏（東洋大学客員教授・GM作物研究の第一人者）

：森田満樹氏（フーコムネット代表・消費生活コンサルタント）

※オンライン配信はありません。

【参加費・定員・特典】無料。120人。参加者には「フェイクを見抜く」（唐木英明・小島正美共著・2090円）、「食の安全の落とし穴」（山崎毅・小島正美共著・1540円）、「アルコールで走る車が地球を救う」（小島正美ら4人執筆・1760円）のどれかを進呈します。

【参加方法】参加希望者は11月24日までに下記から申し込んでください。

<https://forms.gle/kfMBLVNNfSwnVSS39>

【問い合わせ】小島正美（080-4864-6080、[kojima-1225@outlook.jp](mailto:kojima-1225@outlook.jp)）

（小島宛へのメールでも申し込みは可です）

## 《パネリストの略歴》

■ **Fauci Lestari** さん (写真右上)。1975 年生まれ。ジャワ島中部に住む。2 年前から所有面積 1 ha で遺伝子組み換えトウモロコシ「GM DK95R」(グリホサート耐性、害虫抵抗性、べと病抵抗性)を栽培。コメの栽培も行い、コーンは年に 2 回栽培。両親から農業を学び、2002 年からコメと粳などを販売するビジネスを営む。GM コーンの収量はよく、満足している。



■ **Rosalie M.Ellasus** さん (写真右下)。1960 年生まれ。元市議会議員 (3 期)、フィリピン・パンガシナン州サン・ハシント市の防災担当官も務める。2000 年に総合的病害虫管理農民学校 (Integrated Pest Management Farmers Field School) に参加したあと、GM 作物などバイオテック農業に関心を抱いた。2003 年から Bt コーンを栽培。いまは約 12ha (うち自己所有は約 1.3ha) で栽培し、フィリピンの「BT コーンの女王」と呼ばれている。農民の権利を推進するリーダーシップも発揮している。



■ **徳本修一** (とくもと・しゅういち) 氏 = トゥリーアンドノーフ株式会社代表取締役。日本バイオ作物ネットワーク理事長。グローバルファーマーネットワークメンバー。2012 年、異業種から農業へ参入。鳥取市の 110ha の農地で水稻、飼料トウモロコシ、小豆を生産。2020 年に始めた農業現場のファクトを発信する自社 YouTube チャンネルは、総再生数 1600 万回を超える農業メディアとして成長中。2023 年にバイオテクノロジー農業の健全な議論を目指し、国内外のプロ農家が集う日本バイオ作物ネットワークを設立。日本での GM 作物生産の可能性も模索中。

■ **田部井豊** (たべい・ゆたか) 氏 = 東洋大学客員教授。1958 年生まれ。宇都宮大学農学部卒。農林省農林水産技術会議事務局課長補佐、農研機構・生物機能利用研究部門遺伝子利用基盤研究領域・領域長などを経て、2022 年 4 月から東洋大学食環境科学部食環境学科教授、24 年 4 月から客員教授。

■ **森田満樹** (もりた・まき) 氏 = 表示問題などに詳しい消費生活コンサルタント。1985 年九州大学農学部食糧化学工学科卒業。食品会社研究所等を経て、科学的情報を発信する消費者団体「一般社団法人 Food Communication Compass」代表。消費者庁「食品表示一元化検討会」委員などを歴任。東京海洋大学非常勤講師。

■ **小島正美** (こじま・まさみ) 氏 = 1951 年生まれ。毎日新聞社生活報道部で食の安全、環境・医療・健康問題を担当。2018 年に退職。東京理科大学非常勤講師、「食生活ジャーナリストの会」代表などを歴任。現在は「食品安全情報ネットワーク」共同代表。「フェイクを見抜く」(共著)「食の安全の落とし穴」(共著)など著書多数。